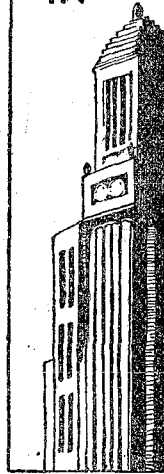


# 路政春秋



## 注意

本欄は讀者諸氏の利用に提供す、治安と風俗とを害し又は人身攻撃に涉らざる限り奇想天外的の寄稿を望む、一文は四百字位にて取捨は編輯手に一任、原稿に道路の改良編輯部宛のこと。

## 聞くも嬉しき橋梁の 美學的設計の苦心

島根縣下水郷の松江大橋を始め高角橋の設計上の苦心談を縣技手小橋氏は次の如く談られたと一般に橋は橋脚の数が少いほど設計も難しくなる。高角橋は橋脚相互の隔りが三十九メートル、全長百三十九メートルで普通ならもつと脚を殖やす必要があるが近來舟運と洪水の場合を豫想してなるべくこの數を減ずるのが理想とされてゐる。

この橋はアーチに斜の支柱を入れてゐないことも技術的に珍しいことで素人目に分らぬところに並々な努力がこめられて

ゐるもので、唄の松江大橋と新大橋、能義那飯梨橋、簸川郡神立橋なども脚の間隔がひろいところに興味がある。また専門家が見て松江大橋は展望臺が中途に設けてあること、川の兩岸と展望臺にのみ電燈を用ひ間接照明を行つてゐることも珍しい工夫である。他府縣では宇治橋に小さい物見臺はあるがこんな大きな展望臺をとくに設け穴道湖の明媚な風光を賞でる心配りは水郷ならではと思ふ。

土地の相違で橋の様式が違つてくるのは自然の傾きで出雲大社の宇賀橋の擬寶珠や紺碧の湖水に白石材の高欄からなる大橋、あるひはH型の能義郡宇賀莊村の千代富橋などそれ／＼モダンと古典を巧にあしらひ

効果を狙つてゐる。もつとも最近の橋はアーチ式が多く採用されるが土地柄で本縣は單桁式かやゝ高尙なゲルバー式といふのが多い。松江市内の北堀橋と作橋は前者にあり大橋などは後者である。橋は景色にもつとも生彩を加へるもので實用のみを目的とする鐵道橋とは意義を異にするのだから觀光都市としてこの設計には今後一層關心を拂ふ必要があると思ふ。

## 脚下照顧

己が歩む道がどんなに立派に舗装され、交通統制が行き届いていても脚許に注意しない心もそらになるならば不安なこと限りなきものとなる。世に岡目八目といふ

やうに他人のやつて居ることに種々の缺點が見付かるものであるが己れの缺點は却つて棚に上げて置く癖がある。己がモデルにせられて紀律の重んずべきを書かれても之に同感を表すなど微苦笑を禁じ得ないことがある。非常時にしても統制といふことにしても國民も官吏も將兵も夫れ夫れ全力をあげて己が分を守ること以外にはあるまい、今中九大教授も次の通述べられて居る。

兵隊さんが生命を捧げて働いてゐるやうに統後の國民が、その持場持場を、十分に守つて行きさへすれば、統制もなにもあつたものではないし、非常時は期せずして國民の勞働能率を、最頂點まで、引きあげずには置かない筈だ。

實はそれが日本の國柄である筈なのであるが、この頃は日本の國民精神が頹廢したためか、何も統制、彼も統制で、この頃は飲料水まで統制せねば、出て來ないやうになつた。

その原因はどこにあるか。私共は深慮する必要がある。そこで思ひつく一つの事は、脚下照顧といふ禪語である。滿洲事變この方、他人の領域の仕事に對して、素人のくせに何だとか、かんだとか非難することは知つてゐるが、自分の足下に、大きな穴のあいてゐることには、反省がない。かやうな缺點は、時局の進展とともに、次第に暴露されずには置かない。

文化人の立場は、由來無力である。権力的に抑へられると、ひとたまりもない。一番迷惑を蒙つたのは、したがつて文化人の世界だつたといつてよいだらう。

どうです。も少しお互に、自分の持場をしつかり完全なものにするために努力しようではありませんか。他人の仕事の非難は暫くおあづけにして置いて、自分の仕事は他人から非難されないやうにしませう。これが言擧げせぬ日本魂だと思ふ。

## 橋梁の絶對多數は何

縣か

會て「道路の改良」誌上高知市は橋の數が頗る多いとの記事が掲げられて居つたが岐阜縣は實に一萬五千二百二十七を數へらるゝのである。一番多い郡は本巢の千四百九十三個、次に揖斐の千三百九十九個、武儀、安八兩郡も千臺である。惠那が千二百四十三あるのは谷の多い證據であらう。市部では水場といはれクリークの所在地として有名なだけに七百八十二個もあり、これに反して、山都高山はさすがに百三十六個しかない。岐阜は五百四個をもつてゐる。縣でしらべた「橋長著大橋梁」によると長さ百メートル以上のものが合せて四十八橋あるが、このうち合渡橋は昨夏の水害に流失し、また本巢橋は二個あるから結局四十六名橋といふことになるのである。最長が安八郡北野村にかゝつてゐる平莊橋で四七七メートル、これに四五八メートルの木曾川橋と

羽島郡桑原村から海津郡海西村へ通ずる四八メートルの野寺橋とが三大長橋となつてゐるが架橋費は十萬圓乃至二十三萬圓であるから工事費からいふと昭和九年出来上つた長良大橋と揖斐大橋が九十一萬圓であるから、さすがに天下の二大名橋の名に恥ないわけである。この二つはともに三八四メートルの長さをもつてゐる。四十六個のうち吊り橋は海津、藍川、鮎之瀬、下渡、川邊、兼山、八百津、白川、惠那、美濃、開運、益田、洞戸、五月の十四橋でやはり山岳部に多いのは不思議はない。郡別にすると長大橋の多いところは武儀の六個、養老の五個、揖斐、本巢の各四個、岐阜、安八、惠那の各三個などである。郡境に架けたものでは加茂の五個が筆頭である。生命からいふと明治年間に架けたものは僅かに木曾川橋外五個にすぎない、もしそれ橋の架かつた由来や名前の因縁、橋のあるところに存在してゐる傳説など面白いものがあらうが今は詮穿しない。

## 農村から眺めた政府 筋の事變處理の一方 面

過日汽車旅のつれづれに先客の讀み捨てた新聞を何気なしに手に執れば「草鞋は一足五錢する。一日に相當腕前のいゝ者でも十三足以上はむづかしい。これが山や畑へ出て思ふだけの仕事をする、一日でだめになつてしまふ。

スフ入りの股引は、田の除草で四日目はほころびた。縫ひ目からすぐほころびてくる。純綿の布切れを縫ひ合はせても、またそこからほころびてくる。これではたまらない。

ゴム地下足袋はほとんどないから、もつめられないが、再製ゴム底とスフの側布でつくつたものは大體五六日でやぶける。これが二圓三十錢もする。

農具屋に稻拔器を買ひにゆくと、その主人の言ふことがかうである。あるにはあ

るが、政府指定の値段では賣れぬ。だから、少し位あげても賣らせてくれと當局に陳情したらよからうといふ。農民は汽車賃をかけてそんなに歩けるものではない。そんな暇はない。

米の問題は、政府の對策でとりあへず處理されたが、炭なども町や村の教員や小商人の家では、みすみす倉庫の炭を前にして高い薪を買ひ、眼をはらしながらたいてゐる。

このごろの會合の多いにはおどろく。指導する方はそれぞれの専門の役人やなかであるが、出てゆくのはいつも同じ顔である。村からその場所までゆくには一時間かゝるから、まづ一日がゝることが多い。

政府にもいろいろ考へがあることだらうが、ひとつあまり氣をもまんで、國民の動員を完成するにはなにが必要か、とつくり考へてみてほしい。總動員法の説明や時局問題などは、村長に部落巡りをさせてやる位でなければいけないと思ふ。

## 電報正に一萬七百三

### 十字

名瀬間電信電話係長丸鬼由松氏の談る所に依ると電報長文の記録としての興味ある譚草がある。即ち氏は次の如く述べられた

或る筆不精な人が知人に手紙を書いたが、面倒臭くなつたので委細電報に譲ると附記したといふ有名な話があるが、ことほど左様に電報だと至極簡單お手輕に済むものの如く考へられやすい。實際についても電報文は料金關係もあつて簡潔なるを生命とし私共の調べたところでは有料内國電報の一

通平均本文字数は十九字になつてゐる。『○○シゴレイケイホンヒシキョサル』といふ電報を受け取つたが『ゴレイケイ』とは御令兄即ち『兄上』のことだと早合點して直ぐ弔電を打つた、ところが『ゴレイケイ』とは『御令閨』といふ漢語をそのまま片假名にしたもので『兄上』が死んだのであるなかつた。弔電をうけてなほ現存すると

ころの『兄上』が後日發信者から鄭重な謝罪をせられたときに『死んだと間違はれた人は長生きをするといふことです、私もお蔭でどうやら長生きをさせていたゞけさうです』と挨拶された、大同小異かうしたナンセンスの事例はいくらでもあるやうであるから、電報文記載方について利用せらるゝ方々の注意を喚起したい。

さて一般には短いものと相場のきまつた電報文も新聞、通信社の利用する新聞電報となると數千字に及ぶものもあるが、電話の發達につれて長文は漸減の傾向を示してゐる、明治廿二年二月十一日即ち憲法發布の當日、東京朝日新聞から憲法全文を片假名で書いて大阪朝日へ打つた電報の字數がなんと一萬七百三十字、恐らく空前絶後であらうと思ふ。

## 世に出る門外不出の 英傑河合繼之助の名

### 訓

頃は慶應元年十一月即ち今より七十五年前三年間に涉る新潟縣高柳村字山中部落の農民騷動を一夜にして解決した英傑河合繼之助の不滅の教訓に關しての石塚常衛氏の披露譚を『傳記』によると高柳村の富豪現村山龜一郎方で決める米の立相場を引下げたため村民が庄屋を味方に引入れようとして紛擾、この騷動が三年間續いたものを河合繼之助が表吟味役として僅か三日で平穩裡に解決、その功勞により出世の糸口を掴み得たのが慶應元年七月だつた、所が解決條件は喧嘩兩成敗で、野望成らなかつた村民は業を煮やし、私刑の罪則を設けて藩廳に納むべき宗印の捺印をなさず再び騷動を惹起、違反者を縊死せしめ、主謀者が長岡に引致されて行く途中、役人の手から犯罪者を奪還する等暴舉に出た。

そこで十一月十四日夜河合は單身當時の庄屋、石塚常衛氏方に乘込んで農民を鎮撫翌十五日「如何なる道理ありと雖も一朝不穩の行動に出づれば暴民と呼ばれ、一揆と

罵られ、その身は召上げられ妻子は路頭に迷ふ事になるぞ」と懇々と諭し、一名の犯罪者も出さず一夜に難問題を解決して、認めたと左記訓示の一書を石塚常衛氏の嚴父大五郎氏に手交したものである。

これを受け繼いだ石塚氏は村民に爭議の歴史を想起させたく無い一念から一切を村民に秘し、毎年十一月十五日の記念日に英傑河合の好物であつた味噌漬飯を訓示の一書に供へて感謝祭を營んで来たが、村民の英傑河合崇拜熱は逐年高まり、殊に最近青年層に「英傑河合に學べ」の聲が湧き起つて来たので、この機を逸せず一書を村民に公開、その訓示を大陸に雄飛する村出身拓土への名訓にしようと折も折、騒動解決記念日の去十五日一切を公開するに至つたものである。以下がこの不滅の訓示である。

「欲の一字より迷の様々、心を暗ます種となり、終りは身を失ひ家をも失ふに至るべし、心を直ぐに悟るなら、現在、未來の仕

合あり、子々孫々にも榮ゆべし、ほめそやさるゝは仇なり、憎みなさるゝは師匠なり只々一心正直に眞實つくすが身の護りこの言夢々忘るべからず。」

### あるかなきかの珍聞

#### 奇譚(85)

○小栗重吉の漂流奇譚 海の出来事を記すも時局柄ふさわしき事として、すてゝも置かれず東朝紙の記事を紹介すると斯くの如きものである。外國と交通を禁じられた江戸時代にも四海を繞らす海國日本のこととして漂流して外國に渡つた話は決してすくなくない。半田の生んだ義人船頭小栗重吉もその一人である。しかもその重吉漂流記が船長日記(池田寛親著)が古來の漂流記中最も文學的價值あるものとして今は海國日本漂流史の貴重な文献となつてゐることを知る人は少い、その「船長日記」に重吉漂流の文化十年十月重吉廿九歳のとき名古屋納

屋町の海運業者小島屋長右衛門所有の千石船、督乗丸の船長として船員十三名とゝもに師崎を出帆お江戸に向つたが、その歸途伊豆岬で突然難風に遭ひ、船は見る／＼うち艀をもぎとられつひに涯知れぬ洋上に押し流され、雨水を呑み、積荷の豆を食として大洋に漂ふこと一年五ヶ月、文化十二年八月ハワイ南方で英國商船ボストン號に救助されたがこのときの生存者は重吉の外に伊豆の音吉、龜崎の半兵衛(救助されて後死亡)の三人で、他の十一名はあたら海底の藻屑と消えたのであるが、この一年五ヶ月間の重吉死闘の様子は實に鬼神をも哭かしむるものがあり、遭難二ヶ月後洋上で迎へた文化十一年の正月は二升の粥と水盃をもつて泣き叫ぶ乗組員を激励したが、その年の三月ごろ、船員は榮養不良から恐ろしい敗血病に罹り出し、重吉もこれに冒されたが、自ら剃刀をもつて身を切りうつ血を搾り出し積荷のにがりで傷口を消毒、臆れゆく船友にもこの荒療治をしてやらう、

としたが痛さに堪へかねてこれを背せなかつたためその六月ごろまでには三名を残し全部死亡した。このとき重吉はその死骸は船室に安置し故山に思ひを馳せつゝ斃れた船友の靈を手厚く弔つたのである。ポストン號に救はれた重吉はその後露領カムチャツカのアミシカといふ港に到着したが、土地の毛皮會社の支配人パラノフがこの悲壯にして勇敢な洋上の死闘を聴き痛く感動し

バ氏の手厚い看護をうけ勇敢なマドロス重吉に美女をあたへこの地に留ることを勧めたが、彼重吉は祖國を忘れることは日本男子のなし得ざるところなりと敢然これを斷りバ氏の手厚いもてなしを感謝しつゝ、再び便船に乗せられ故郷半田に歸つたのであるが、師崎出帆後實に五年振りのことである。故郷へ歸つた重吉は尾州侯に仕へ水主として扶持を賜はり帶刀と小栗の苗字を許され漂流中洋上に消えた船員の菩提をとむらふため供養碑の建設を志しバ氏から土産として貰つて來た當時としては珍らしい品

約五十點を名古屋の七ツ寺や乙川光照院に展覽し廣く寄附を募り、遂に笠寺觀音に船形の臺石の供養碑を建てたが、この碑は光照院東の觀音堂前にある徳本上人筆の石碑を参考にしたといはれ、その後笠寺に建てられた碑はゆゑあつて移され、今は熱田白鳥町成福寺に在る。

## 大津の名木と老樹

觀光都大津は千三百年前の近江朝以來早くも文化が開けてゐただけに史蹟が多く、それが物語る名木および老樹も少くないので市觀光課では輝く紀元二千六百年を控へてこの得難い觀光資源を世に宣揚するため市内の名木、老樹を網羅、收録する説明入りグラフ「大津の名木と老樹」を作成中で近く京阪方面その他の觀光關係者へ配布する同グラフに收録の樹木は「大石良雄遺愛の梅」(小川町青龍寺)「蓮如上人の擲」(神出開町大塚)など二十三本でその主なるものは次のとほり芭蕉翁の芭蕉(馬場町義仲

寺)同翁の稚、幼住庵良辨僧正の枝櫻(石山寺境内)義仲手向の松(義仲寺)粟津の晴嵐、長等公園高觀音前菩提樹、長等公園の平忠度さくら、山中町の一本杉、呼次の松(石場公園内)左馬之助駒止の松(柳ヶ崎)など。

掌中の珠とられたる

心地して秋の野路

を獨り行くわれ

そなゑられしものに役立つ

われを見て

獨り微笑む、

黄昏のみち